

令和2年度の学校評価目標

- 1 建学の精神「不言実行 あてになる人間」の具現化
- 2 普通科とシステム科を併せ持つ、多様な選択肢のある教育
- 3 授業を大切に、授業工夫を行うことで、「わかる授業」の展開と推進
- 4 一貫コースを中心とした高大連携教育
- 5 豊かな自然、恵まれた教育環境の中での自己実現
- 6 校則を守り、公共心や公正さを育む教育

	重点目標	具体的方策	留意事項
渉外部	<ol style="list-style-type: none"> (1)一般入試の志願者を増やし、募集定員を確保する。 (2)女子生徒と普通科(特進・一貫)コースの志願者増を目指す。 (3)中部大学との「高大一貫教育」を含めて、学校のブランド力(評価)の向上を目指す。 (4)新課程に向けて「個性を生かす教育」を他部署と連携し具体的に発信する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1)地元重点地区を軸に丁寧な募集活動を継続する。学校見学会は今後も在校生中心に運営し、学校行事として他部署と連携して本校の魅力を伝える場として活用する。 (2)女子生徒の活躍する情報はリーフレットなどを含め積極的に発信する。 (3)他私学との比較を含め広くアピールする。上位コースの増加につながる資料のあり方を検討する。 (4)新課程を見据え、本校の特色を上位層獲得の観点から明確化する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1)学校見学会実行委員を年間の係として、可能な限り年度当初にする。実行委員主体の運営を継続すると共に、各分掌との協力も続ける。 (2)将来のネット出願の準備・調査を行う。入試問題の作成に関して、時期や内容、印刷方法などの見直しを検討する。 (3)中部大学での進学説明会は日程と予算の関係で中止する。 (4)新課程に向けての募集戦略を策定し、臨時の広報物などの予算を検討していく。
総務部	<ol style="list-style-type: none"> (1)自然災害への対応 (2)2021年度実施予定の修学旅行者選定への準備 (3)行事、式典の充実 	<ol style="list-style-type: none"> (1)災害発生時の対応に伴う、安全マニュアルに関わる教職員の訓練実施の検討を行う。避難所運営について、行政・地域との会合も検討する。 (2)現在のJTBとの契約は2023年度をもって終了する。2021年度に業者選定が実施できるよう、修学旅行検討委員会を開く。 (3)入学式の開式までの計画、卒業式の保護者関・在校生席の検討、新入生オリエンテーション・修学旅行での学年との役割分担を明確にする。 	<ol style="list-style-type: none"> (1)教職員の訓練実施については、実施時期や重要性の観点からよく精査し、重要度の高いものから行うよう検討する。避難所運営については、行政と打ち合わせを行ったうえで、地域住民との三者の会合を検討する。 (2)修学旅行検討委員会の年間スケジュールを早急に立て、業者選定方法については、他校や公立の例を研究し、世の中の流れにあったものを作成する。 (3)学年をはじめとする関係部署とよく調整する。
教務部	<ol style="list-style-type: none"> (1)新学習指導要領の内容をふまえた生徒の自発的探究を促す教育課程への移行(準備) (2)ICT教育対応に向けての準備検討 (3)校務システムの新調査書指導要録への移行 	<ol style="list-style-type: none"> (1)新教育課程への情報収集を行う。教育課程委員会などで情報交換を行う。ICT機器を使用した授業の公開や総合的な学習・探求の時間を見直す。 (2)新年度入学の普通科特進・一貫・進学アドバンスコースと機械電気システム科1年生のiPad個人購入、及びWi-Fiポイントの増設・充実。 (3)情報部、進路指導部との協力、調節を行う。必要に応じて説明会を実施。 	<ol style="list-style-type: none"> (1)どの高校でも情報が不足しており、各教科研究会などで得た情報の共有で対応していく必要がある。 (2)総合的な学習・探究の時間を中心としてiPadやパソコン室の利用が多くなるが、必ず使用できるとは限らない。ICT機器に依存しない探究活動を考える必要もある。 (3)引き続き説明会を実施し確実に運用できるようにする。情報部、進路指導部と協力・調整を行い不都合のない内容にする。
生徒指導部	<ol style="list-style-type: none"> (1)身だしなみ指導を徹底し、規律の向上に努める。 (2)登下校時のマナー向上と交通安全に努める。 (3)いじめ防止とSNS利用に関するモラルの向上を図る。 (4)携帯電話の取り扱いの徹底を図る。 (5)モラル向上のために各種講習を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> (1)全校集会、学年集会を通して身だしなみの指導を徹底する。問題行動を未然に防ぐ施策を検討する。 (2)街頭指導並びに啓発活動により、交通事故防止、交通マナー向上に努める。 (3)問題行動発生時における初期対応の迅速化を図るため、昨年度より学校向けネットパトロール「スクールガーディアン」を導入し、関係者との連携をより一層強化する。いじめによる問題行動を防ぐため、迅速にかつ細やかな指導姿勢で臨む。 (4)校内での携帯電話取り扱いルールの徹底を行う。 (5)愛知警察署と連携し、講習内容を検討する。 	<ol style="list-style-type: none"> (1)問題行動を防ぐために、日頃から生活規律上のための意識付けを図る。 (2)PTAによる街頭指導をサポートする。各種講習会をはじめとする交通安全指導の充実化を図る。 (3)生徒に関する問題点を関係者で共有し、初期対応の迅速化を図る。いじめの早期発見と早期指導を行うために、行内連携を迅速に行う。 (4)携帯電話の校内持ち込みを条件付きで認めて四年目になり、再度ルールの徹底を図る。授業中の携帯電話の指導についてゼロを目指す。教員間の指導に対する温度差をなくし、学年運営委員会や学年会、教務との連携を密にする。 (5)各分掌、学年会と連携し本校の生徒に必要な講習内容を検討し実施していく。
特活部	<ol style="list-style-type: none"> (1)生徒会執行部の活性化、全員参加型の生徒会行事の継承により、実施内容の質と魅力を高める。 (2)部活動を物心両面で支援する。 (3)教育相談を一層充実させ学年・分掌との連携を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> (1)生徒会役員選挙公約実行のための取組を行い、年間を通しての表彰の検討と実行をする。一高祭初日の在り方の継承と充実を図る。 (2)部活動規約の見直しを検討し、推進費配分を年度初めに行う。徴収額の見直しも検討する。 (3)カウンセラーと学年会の連携した教育懇談会の在り方をより充実させ、カウンセラーの生徒向けの講演を実施する。各担任との連絡を密にするよう図る。 	<ol style="list-style-type: none"> (1)内容をよく吟味したうえで、生徒会執行部指導助言係で補佐し実現させる。欠席遅刻早退・球技大会・体育祭・文化祭・美化コンクールなどを年間集計し表彰すると共に、生徒会新聞で月ごとに生徒に伝達する。2019年の活動を継承しつつ、文化祭初日の在り方を検討する。 (2)現状と合わなくなってきた規約を現状に合うように改定する。推進費の配分を小委員会で行うことを継承し、生徒数の増減を考慮した徴収額の見直しを検討する。 (3)テーマや実施方法、参加者なども含め考えていく。十日以上欠席した生徒が必ず教育相談委員会上げられるように努める。

情報部	<p>(1)ICT機器を活用した授業展開の検討。</p> <p>(2)校務システムの有効的な運用方法の確立。</p> <p>(3)ICT教育の具体的な取組みに関わる無線ネットワークシステムの構築検討。</p> <p>(4)本校ホームページの製作・運営・管理方法を検討。</p>	<p>(1)iPadの活用方法について検討研究すると共に、講習会などを利用して情報提供をする。</p> <p>(2)G-Suiteを含めた校務システム機能の有効的な利用方法を確立させる。</p> <p>(3)無線LAN設備の生徒利用が増加することを考慮したネットワーク設備を検討する。</p> <p>(4)動画配信など新たな技術を取り入れながら、本校情報発信コンテンツの見直し、及び制作を行う。</p>	<p>(1)新たに一貫コースと進学アドバンスコースでもiPadを持つ事になるので、授業充実のためにもICT先進校などの情報収集を進め、適宜研修会や公開授業を計画する。</p> <p>(2)校務のICT化について整理し、有効利用できるように解説書を整え、必要に応じて説明会を実施する。来年度の進学調査書の様式改訂に向けて、メソフィアの改訂を担当分掌と進める。</p> <p>(3)無線LAN関連設備については3年計画で整える。全校をWi-Fi環境下にすると共に、電子黒板との無線接続化の整備も行う。ネットワークパフォーマンスを考慮しつつ、安定利用可能な設備増強を計画する。</p> <p>(4)各分掌の協力の下、情報コンテンツの充実を図る。YouTubeなどの新しい配信技術に係るルール作りを進め、広く活用できる環境を整える。</p>
進路指導部	<p>(1)中部大学入学者生徒の確保と同時に、進学学科に対する理解と学力の向上。</p> <p>(2)国公立大学合格者10名の実現。</p> <p>(3)新入試への対応を行う。</p> <p>(4)推薦入試の出願資格条件の確認の実施。</p> <p>(5)生徒・担任・保護者の連携強化、企業研究の徹底。一次合格率90%以上を目指す。</p>	<p>(1)希望者への説明会や卒業生との懇談会などで十分な情報を提供できるように努める。スタディサプリを利用して学力向上を図る。併設校推薦条件の学力面での見直しを検討する。</p> <p>(2)上位大学希望生徒をカルテ化し、学年や教科担当などで情報共有し全体で指導を行う体制を固める。国公立大学入試の情報収集、研究を行う。</p> <p>(3)学年や情報部と協力し、探究学習やICT教育の拡充に努め、求められる力を養成する環境を整える。入試問題の情報収集に努める。</p> <p>(4)出願時の確認を徹底するように指導する。</p> <p>(5)職業別進路ガイダンスの実施を検討し、会社見学やインターンシップの拡大を行う。SPI テストの活用にも努める。</p>	<p>(1)進学に関して、進路に関する情報を提供する場を具体的に設定し、すべての教師に理解と協力を仰ぐ。上位生徒に対しては学年や教科の協力の下、早めに指導を行う。</p> <p>(2)就職に関して、担任との情報交換を行い、必要に応じて保護者や企業との連携も密に行う。また、求人票の確認を慎重に行うように努める。</p>
普通科	<p>(1)新課程の策定に向け、普通科のコース編成を決定する。</p> <p>(2)国公立大学合格者の増加と、どの進路先でも通用する学力を養成する指導を行う。併設校推薦されない生徒の進路先を確保する方法を策定する。</p> <p>(3)コース毎に進路目標を早期に設定し、豊かな人間性を養いつつ、きめ細やかな進路指導につなげる。</p>	<p>(1)本校の将来像を見据え、新カリキュラムについても並行して検討する。</p> <p>(2)学習量調査と成績優秀者の公表は現状維持とする。自習室の運営方法は継続して検討し、スタディサプリの活用を含め個別指導と学習支援の体制を強化する。学習意識を向上させる指導を心がける。</p> <p>(3)進路研究会を継続し、中部大学の理解及び連携と、進路指導方法の充実に努める。</p>	<p>(1)新たに取り組むべきことを早期に把握し、可能な範囲で実践を行う。</p> <p>(2)継続して英検に取り組ませる。スタディサプリ及び基礎診断・到達度テストの効果的な利用方法を確立する。iPadを探究活動だけでなく授業でも積極的に活用する方策を考える。1年生の探究の時間のテキストを、キャリア教育につながるものへ変更する。</p> <p>(3)新入試制度に対応できるように情報収集を行い、生徒にも迅速に指導を行う。成績上位者に対する進路指導を拡充する。</p>
機械電気システム科	<p>(1)資格・検定の合格者数を増やすなど、生徒の専門的能力の向上を図る。</p> <p>(2)地域貢献を視野に入れた対外的な活動の拡充と実績の向上を図る。</p> <p>(3)機械電気システム科としての特徴づくりと立案を図る。</p> <p>(4)専門課程を学ぶ意義を理解させるとともに、進路意識の高揚を図る。</p>	<p>(1)ジュニアマイスター顕彰の取得率増加や社会的に高く評価されている試験の合格実績の向上。</p> <p>(2)各種競技会、地域イベントへの積極的参加を教員や生徒に働きかける。</p> <p>(3)学校法人の行動計画、新学習指導要領に向けた取り組みなど、システム科の将来を視野に入れた計画を実施する。</p> <p>(4)教員の技術向上のための取り組み積極的に行い、授業の更なる充実を図る。</p>	<p>(1)資格試験を考慮した授業内容の工夫や、授業効率の工夫、設備の充実を図る。</p> <p>(2)各種競技会の早期情報収集を図り、研究や準備を行う。</p> <p>(3)地域との協働、高大連携及び企業との連携などによる取組を行う。新学習指導要領に向けてのシステム科のカリキュラムの検討を始める。</p> <p>(4)ICT 機器を活用した学習システムの充実を図り、生徒の基礎学力の更なる向上を目指す。iPad 全員購入(システム科の2/3が個人保有)。</p>
一二年生	<p>(1)学校における中堅学年としての自覚を持ち、様々な活動ができるように支援をする。</p> <p>(2)学習規律の維持・向上と、学力の向上・定着に努める。</p> <p>(3)全員が進路目標を明確にし、実現に向けた準備を開始する指導を行う。</p>	<p>(1)学年末の修学旅行等を見据え節度ある行動ができる学年となるように、ホームルームや学年集会などを通してルール、モラル、マナーの指導を続ける。</p> <p>(2)授業を大切に、学習ツールを有効に活用して学力が向上できるように指導をする。また、多くの生徒が資格・検定の取得ができるように指導をする。</p> <p>(3)大学入試制度の変更などの情報をしっかりと発信し、オープンキャンパスへの参加を促すなど自らが進路を考える機会を多く与えるように努める。</p>	<p>(1)教員からの発信だけでなく生徒による自己評価も行いながら、しっかりと意識付けができる指導を心掛ける。</p> <p>(2)学習ツールの利用や学びの基礎診断などのデータの活用について、教員側も学んでいく必要がある。</p> <p>(3)学年会内での情報共有だけでなく、関連部署(進路指導部・普通科・機械電気システム科等)との連携を強めていく必要がある。</p>
三年生	<p>(1)最上級生としての自覚と責任を持たせ、主体性や自主性を身に付けさせる</p> <p>(2)併設校推薦者150名、国公立合格者15名、大手企業</p>	<p>(1)成績上位者、中部大学併設校希望者、他大学希望者へスタディサプリや Classi の配信機能を利用して学習到達度テストを行い、学力向上を図る。就職希望者は就職模試を行い、基礎学力向上を図る。またコミュニケーション能力向上を目</p>	<p>(1)日頃から生活規律・学習規律を守り実施することを心掛ける。</p> <p>(3)他学年とともに協力し引き続き強化を図る。</p>

<p>内定者30名。普通科はスタ ディサプリ、システム科は Classi、を利用し基礎学力向 上に努める。 (3)身だしなみ・携帯電話の取 り扱い指導の徹底 (4)探究活動(総合的な学習の 時間)</p>	<p>指し個別指導を強化する。 (2)身だしなみ・携帯電話の指導を行う。 (3)それぞれの進路・興味に合わせた探究活動をす る。</p>	
--	--	--